

No. J2208

軍事基地の近隣を生きる

：マーシャル諸島共和国イバイ島における都市形成の歴史人類学的研究

京都大学大学院人間・環境学研究科 博士後期課程

大竹 碧

本研究の目的は、米軍基地に隣接し、国内第2の都市であるマーシャル諸島共和国イバイ島を対象として、米国政府、米軍、そして現地住民を含む多様なアクターが関与した、ダイナミックな都市形成の歴史過程を明らかにすることである。具体的には、同島における都市空間の建設と、住民による社会関係の構築がなされた過程を、歴史文書調査と実地調査の両面から探る。

活動1年目は、ハワイ大学マノア校の太平洋アーカイブスにおける歴史文書の調査と、調査成果の整理を中心に行った。収集した資料は主に、① 信託統治領政府の関係者が作成した文書や通信記録、② 米国による信託統治期に、イバイ島で調査を行った人類学者ジャック・トビンのフィールドノート、③ マーシャル諸島における歴史実践にかんする出版物（現地語によるものを含む）、の3点に分けられる。

第一に、①および②の資料からは、米国政府による都市設計と現地住民の生活実践の齟齬を素描するとともに、「米国政府と軍の関係者」と「現地のマーシャル人住民」の間を行き来し、都市形成に関与した存在として、人類学者のトビンを位置づけることができた。トビンのノート類からは、信頼関係を構築した住民から受ける要望と、米国政府の関係者から受ける指示の間で葛藤する様子も伺えた。

第二に、③の出版物の渉猟と、報告者によるこれまでの実地調査の経験を突き合わせることで、現在のイバイ島で展開される社会生活の多様な局面において、初期接触時の探検家らの記録に見られる、オーラル・ヒストリーや神話が引用・言及されている点が示唆された。こうした引用のあり方は、多様な背景と歴史認識を有する他者同士が、過密なイバイ島において共同体の形成を行ってきた方法を知る上で注目に価する。

活動2年目においてはこの点にも留意しつつ、イバイ島における実地調査を行う予定である。